

御 礼

時下、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

去る、三月一日に発生した「東日本大震災」におきましては、発災直後から、釜石・大槌地域の住民への保健・医療・福祉に関し長期に亘る医療支援活動にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度の大地震における管内の被害状況につきまして、会員の行方不明が二名、会員の家族・スタッフの死亡の他、病院・診療所については、市内東部地区・鶴住居地区・大槌町内の全ての医療機関が全壊・半壊等、壊滅的な被害を受けました。これから、どのように地域住民の健康を維持していけるか危惧されるところでございましたが、各地から、また遠路、多くの皆様からの心強い医療支援活動によって、釜石・大槌地域の保健・医療体制を維持することが出来ました。私たちもまた、ご支援をいただいた多くの皆様と手を携えることにより、困難に立ち向かい、幾多の苦難を何とか乗り越えて来られたと思っております。三月一日の発災から、早くも半年を経過致しましたが、ようやく落ち着きを取り戻し、お陰様で被災したほぼ全ての医療機関が仮設診療所での診療を再開、また、再開に向けて準備を進めているところであります。街が瓦礫と化した劣悪な環境の中にも拘らず、発災直後からの医療支援活動に全力でお応えいただきましたことにつきまして、改めて心より感謝申し上げます。

当地域ではこれまで、明治・昭和三陸地震津波、チリ地震津波等、多くの災害により甚大な被害を受けながらも、その都度、

先人先達の英知と努力により幾多の困難を克服し復興を遂げてきたところであります。今回の大震災からも必ずや復興し、「そこに人がいる限り、『希望』はまた蘇る」ことをひたすら信じて、より元気な、より住みやすい『釜石・大槌』となるよう私共釜石医師会会員一同、一致団結のうえ、地域医療の再生また、地域の復興に全力で取り組んでまいり所存でございます。被災者・避難者の方々が一日も早く健康で安全な暮らしを取り戻すことができよう、引き続き皆様方の温かい御支援・御協力をお賜りしますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、時節柄、ご支援を頂きましたスタッフの皆様方におかれましてはくれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます、甚だ簡単ではございますが、書中をもちまして御礼のご挨拶とさせていただきます。

平成二三年九月一日

釜石医師会

会長 小泉 嘉明

釜石医師会災害対策本部

本部長 寺 田 尚 弘

会員 一同

独立行政法人国立長寿医療研究センター

総長 大島 伸一 先生

役職員 御一同様